



浦頭教会・聖夜

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>


発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

わたしも

その一員です

主任司祭 工藤 秀晃

主の御降誕ならびに新年あけまして、おめでとうございます。おひとりお一人に心よりお慶び申し上げます。

未だに私たちの生活は、新型コロナウイルス(変異株)によって揺さぶられ続けてはいますが、それでも少しずつ明るい兆しが見えてきたように感じられます。勿論、ここで油断してしまっは元も子もなくなってしまうわけですが、何らかの希望を持つことができるということは、やはり嬉しいもので、自ずと心も軽くなる気がします。

さて、二〇二三年一〇月に世界代表司教会議(シノドス)が、「ともにあゆむ教会のため、交わり、参加、そして宣教」というテーマのもと開催されます。このことは、昨年のカトリック教報九月号から今のところ十二月号まで、毎号のトップ記事と

して取り上げられてきましたので、皆さんすでにご承知のことかと思えます。

ところで、今回の世界代表司教会議のテーマの文言、何となく聞き覚えのある文言だと感じられた方もおられるのではないのでしょうか。と言いますのは、今から二十年ほど前のことになりましたが、長崎教区は新たな世紀・新たな千年のあゆみを始めるにあたって、先の教区長であられた島本大司教様の提唱のもと、一つの目標・一つの柱として「宣教する教会をめざして」を掲げ、その一步を踏み出しました。そのあゆみが続ける中であって、現教区長の高見大司教様は、より積極的な意味合いを込めて「参加し、交わり、宣教する教会」を掲げ、折に触れてそう呼びかけて来られたからです。

しかし、そのような呼びかけも、目まぐるしく移り変わっていく時の流れの中であって、ついつい流されてしまうこともあ

り、ひとところに留まり考え続けることが難しい要因も多々あって、意識から遠のいてしまっていたような気がします。

フランシスコ教皇様は、今回の世界代表司教会議にあたって、ある特定の「限られた人」ではなく、「すべてのキリスト者」からの意見を聞きたいと望んでおられます。なかなか自分のこととして捉えづらい所もあるかと思えますが、それでも教皇様の呼びかけに応えて「これまで、誰とともにあゆんで来たのか。これから、誰とともにあゆんで行くのか」、どうぞ自問自答してみてください。できることなら、身近な人と分かち合ってみてください。



## 新年の挨拶

典礼委員長 小田 哲也

明けましておめでとうござい

ます。昨年の典礼へのご協力に心より感謝申し上げます。またこの場をお借りして、特に平日の典礼担当者、シスターの方々へ重ねて感謝申し上げます。

今年の十月には半泊教会が百周年を迎えます。現在、そのためのお祈りを作成していますので、ご協力をお願い致します。私事で恐縮ですが、五島に帰って来てから亡くなった祖父母の家に住んでいます。約四十年程経っていると思います。半泊教会と比べること自体が申し訳ないのですが、地盤がずれ隙間が多く、あちこち傷んでいます。初めの頃は、いつか新しい家を建てるのが出来たらなぁと思っていました。しかし、休みの日を利用して少しずつ修理していくうちにどんどん愛着が湧き今では可愛く見えてきました。

私はきつと神様に対して毎日のように裏切ったり、悲しませたりしていることと思います。でも、その度にこの地にいるお

陰で教会に行き、神様に会いに行くことができません。神様は「お前はよくもぬけぬけと教会へ来るなあ。典礼委員会だ!!」と思っているかもしれません。でも、いつも来る度に少しずつ愛着が湧いていると感じます。身近に教会に行くことができこの環境に感謝しながら、百周年を迎える深い愛着のある半泊教会へのお恵みに与かることを楽しみにしています。

また、今年一年、皆様にご迷惑をおかけしますが、典礼奉仕に努めたいと思います。



## 私のローマは上五島

浦口 恵子

新年のお慶びを申し上げます。寅年の今年には「還暦」という節目の年を迎えました。

「還暦には聖地巡礼に行こう!」友人と夢を膨らませ計画していましたが……コロナ禍です。

ローマの夢は上五島巡礼となり、昨秋「還暦四人旅」に行きました。上五島出身でガイドの経験もある友人が車を走らせ、裏道を抜け、教会の歴史や絶景スポットなど、ガイドしてもらいながら、二日間で二十ヶ所もの教会を訪れました。お祈りの苦手な私には、何年分析したのだろうかと思うほど祈り三昧の二日間でしたが、祈った後の清々しさは大きなお恵みでした。

祈って、笑って、感動の上五島巡礼は素晴らしい還暦記念になりました。大きな出来事だけでなく、身近な喜びに気付けるように、年女の一年を感謝の心で過ごしたい。

女性部

## ミニ・バレーボール

交流会

当初より二ヶ月遅れの十一月二十三日、昨年に引き続き「交流会」という形で、下五島地区女性部ミニ・バレーボールが市民体育館にて開催された。

今回は、我ら浦頭小教区に三井楽小教区、水ノ浦小教区、地区司祭団が参加し、交流会ではあるが、総当たり戦にて順位を競うこととなった。

どの小教区も、仕事や家事や子育て等の多忙な日々に加えてコロナの影響もあり、思うように集まり練習できなかったかと思われるが、それでも随所に好プレーや白熱したラリーの応酬が見られ、盛り上がりを見せた。長崎教区の幾つかの地区で行われているこの女性部ミニ・バレーには、「必ず三人が一回ずつボールに触れ、三回目で相手コートに返す」という独自のルー

ルがある。そのため、誰か一人だけ上手でも、なかなかボールは繋がらず、パスやトスを出す際には、必然的に相手をより意識し、思いやったものとなること何よりも大切なポイントになっていと思う。

今回も、優勝は三井楽小教区にお譲りし、浦頭は第二位の結果で交流会を終えた。出場された方々に、心より感謝いたします。



十一月二十三日、二ヶ月遅れの大会となりました。その日は寒く、いつもより着込んで会場に集合。アンナの会の強力な助っ人もあり、二位の成績でした。平均年齢では間違いなく一位でした。

練習時より、足や膝、腰が痛くサポーター、コルセット装着。試合は、地域の方の温かい応援もあり怪我なく終了。皆様に感謝です。帰りは両手にいっぱい景品をかかえ、心も体もぬくもって、家路につきました。

(木口 静枝)

参加して下さった皆様、ありがとうございます。参加できない私は、せめて応援だけでもと会場へゴーノその日は二ヶ所で開催が行なわれていました。ちらっと覗いたら、工藤神父様発見。他の神父様方の楽しそうな掛け声が響いていました。参加して下さった選手の皆様大変だったと思いますが、当日もケガなく無事に終了できたことを感謝しています。私もおかげさまで和ませて頂きました。神父様方の応援はとても楽しかったです。

(赤尾 管子)



# 中村長八神父様の ドキュメンタリー 作成進む

青木神父様 投稿(二)

●ドミンゴス中村神父の列福調査運動はどのように始まったか

私は一九七七年に来伯し、パウルー教区でのマリア会が担当する小教区の司牧活動をしながら日伯司牧協会のサン・パウロ州内陸の広範囲(半径二五〇キロメートル)の宣教司牧の責任者でした。幸いにして三年後の一九八〇年に、十歳先輩のパウロ三木長谷川一郎神父がブラジル地区で働く宣教師として来伯し、広い地域を分割して、サン・パウロ内陸部の日系人の宣教司牧活動に従事しました。

その間、長谷川師は、一九八三年十一月十四日、アルヴァレス・マシャード市に日系人カトリック信者八百人もの参加者を数えた「中村長八神父の渡伯六

十周年記念ミサ」を成功裏に収めました。それを機会に、中村神父の遺徳と宣教精神の再発見を目指して「ドミンゴス中村長八神父顕彰委員会」が生じ、次いで中村神父の歴史資料の収集と調査委員会に発展し、一九九一年三月十七日に、「ドミンゴス中村長八顕彰記念博物館」がアルヴァレス・マシャード市の聖ヨゼフ教会の敷地内の中庭に建立されました。二〇〇二年六月二十八日、パウルー市のカテドラルの応接間で、「モンセニョール・ドミンゴス中村長八神父列福運動」の臨時委員会を招集し「神の僕」の称号取得を目指して列福調査申請の手続きに向けての申し合わせを取り付けました。同年八月十三日、ボツカツ教区管区に属する八名の司教様方の連名で列福調査委員会の設置に漕ぎつけました。当委員会のブラジル側の申請者にミリアリヤ神父(教会法学者)、日本側の野下千年神父を選任し、申請者側の担当司教、プルデンテ教区長

ジョゼ・カミニョ・サラッチョ名義で二〇〇二年九月六日付で正式にヴァチカン市国の列聖省宛に「モンセニョール・ドミンゴス中村長八師の列福調査申請書」を提出し、受理されました。責任管轄所在地・プルデンテ・プルデンテ市、登録番号二五一五番、調査種類「分類」「神の僕」称号取得として今日に至っています。

二〇〇六年十一月二十二日、ヴァチカンの列聖省から「異常なし」のお墨付きを得て二〇〇九年三月十五日、列聖省の監督指導のもとに第一段階として教区レベルでの資料の内容調査を開始しました。

嬉しいことに、二〇二〇年十二月に第二段階目の調査期間に入って専門家レベルでの検証がなされており、この間に中村神父の取次による奇蹟が認められれば「福者」への段階が早まると言われています。



## 信仰の宝

発見

●教会暦を大切にしよう。

私たちの信じているイエスマは、人となってこの世に來られた方です。もうすぐクリスマスがやってきます。子供の時は何となく嬉しくなる季節でした。今は純粹な心を失って「待ち望む」気持ち薄れているかもしれません。信仰の世界でも「待つこと、待ち望む」ことは、とても大切な心構えです。忍耐と希望が必要だからでしょう。

ところで教会暦、教会カレンダーの大切さを自覚していますか? 教会のカレンダーの初めは待降節です。今年は十一月二十八日が待降節第一主日でした。この日から教会の暦・典礼暦の新年が始まり、来年の王であるキリストの主日で一年が終わります。

通常の生活でもカレンダーは重要ですが、カトリックの歴史特に長崎のキリシタンの歴史においては、「日めくり」を伝え

ることも信仰を継承する一つの鍵となりました。二五〇年にも及ぶ禁教の中で、聖霊の働き知恵により考案された秘策と言えらるでしょう。潜伏しつつも霊的賢明さによって受け継がれてきた暦です。小教区の、ある家庭でも先祖が墨字で書いた暦や洗礼台帳が床下や襖ふすまの間の和紙から見つかりました。先祖たちは暦、記録を残しておけばいつの日か明るみにされると信じ危険も恐れず後世に残しました。

現在、信仰は自由に表明できません。しかし神への信仰、キリストご自身への愛、熱意は冷めているかもしれない。教会暦は、限りある人生を生きる者の信仰の歩みを豊かにする教材です。

一戸に一冊ある「祝日表」を活用し、季節ごとの精神を学べば、生活に密着した信仰を育てることが出来るでしょう。

慈しみと愛

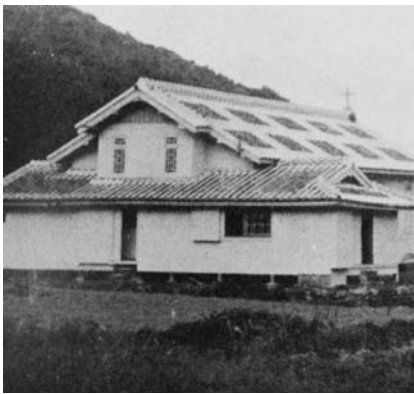


## 「浦頭小教区の歴史」を追って VI

半泊教会は一度、危機的な状況に遭っています。時は一九八七年、昭和六十二年にさかのぼります。

夏の終わりの八月三十一日、台風十二号が甚大な被害を与えて去って行きました。その時、暗闇の中、凄まじい風が轟音と共に屋根を打ち砕き、落としていきます。

その後、半泊・間伏・鯉網代キンナガアジロの信徒は全力をあげて修復に取り組み、鉄川与助が建てた教会を見事に復旧しました。



修復前の半泊教会

ここまで浦頭小教区の歴史を草創期からたどりながら、各教会の足跡にも触れて来ました。

最後に、浦頭小教区を中心となる浦頭教会について書き留めて筆を置くことにします。

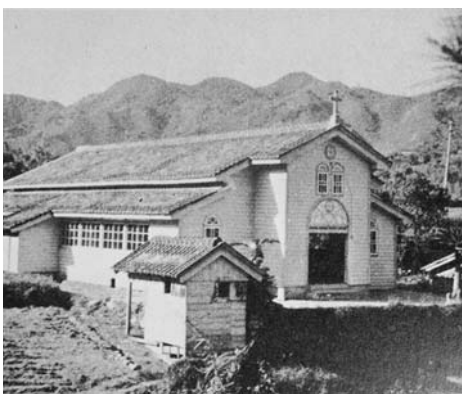
読者の方もご存知の様に、現在の浦頭教会は周りに司祭館、信徒の集会場所である神羊館と共に、孟宗竹が下方に繁る小高い丘に建っています。

古い浦頭教会は、現在ある地より少しだけ福江寄りの浦頭公民館から更に奥の方に分け入った所がありました。自分達の小学生の時は、朝六時ぐらいのミサだったと思いますが、教会のそばの小川のせせらぎを聞きながら、眠けまなこを手でこすりながら、ミサに急いだものでした。

当時の冬は軒下のきしたにつららぶらさがり、土の道路の水たまりは薄い膜を張ったように凍いっていたのを思い出します。当

時の教会では直接、木の床に正座して祈りをしていた事もあり冷たさの為に体の芯まで冷え切って痛さを感じる程でした。

ミサが終る頃には、白み始めた世界が、下る石段の足もとを照らして、朝餉あさげの待つ自宅に家路を急がせました。古い教会は一八八八年に建てられていましたが、新教会でのミサが始まる時、浦頭地区の信仰の中心としての役目を終えました。ただ、少しいの間、新教会の隣りに移転され、集会所として利用されていきました。その後、解体され、今はもうその姿を見る事は出来ません。



旧浦頭教会

# イルミネーション&クリスマスプレゼント

十一月二十八日、毎年恒例のイルミネーション飾り付けを信徒及び地域の方々の協力により無事に終えることができました。

飾り付けされた浦頭・堂崎教会、平蔵消防詰所は島内でももう知られているのか、多くの市民の方々が思い思いに写真を撮りに来られていました。また、夕方からの観光コースとして組まれているのか、旅行者の姿も見られました。



中学生による愛の募金

十二月二十四日、二十五日の主の降誕を祝うミサは感染症対策を十分に行う中、多くの信徒が参加していました。去年から開催できていないクリスマス抽選会の代わりに、今年は青年会にクリスマスプレゼントを用意して頂きました。イルミネーションの光の中、プレゼントを受け取る人々の笑顔が溢れた日となりました。



クリスマスプレゼント

## 小学生侍者レクレーション



今年もコロナ禍で遠出が出来ず侍者旅行に行けないとの事。そこで神父様の計らいで、小学校の体育館を借りてレクレーションを開催して頂きました。

様々な小道具を用意し、飽きが出来ないようにいくつものミニゲームを皆で楽しんでいきましたが、中でも盛り上がったのがフリスビー・ドッチボール。小学生だけでなく、来ていた保護者に神父様、更にシスターまで子供達は元気に、大人達はゼーゼーと息切れしながら走り回り、皆一緒に楽しんでいました。

## 平和のばら保育園お遊戯会

十二月に入り、クリスマスが近づく中毎年恒例の保育園のお遊戯会が開催されました。



今年もコロナ感染症防止の為、保護者のみの観覧となり少し寂しい会となりましたが、園児達は元気いっぱいのお遊戯を披露してくれました。ばら組さん達の聖劇に始まり、つぼみ組の気まぐれダンスにほっこり。すみれ組さんはダンスも上手に出来るようになっていました。ひまわり組さんは赤ずきんの劇で配役をしっかりとこなし、最後に、ばら組さん男児は力強い演舞を披露。女の子たちは可愛い衣装に身を包み優雅に踊りました。保護者の皆さんも我が子の成長を喜びながら、写真やビデオの撮影に動きました。

## 秘跡

主よ、永遠の安息を祈ります。

・マグダレナ 出口ツル子92歳

十一月二十三日 死去 浦頭

・ヨゼフ 宮崎 幸一 83歳

十一月二十三日 死去 宮原

## ” ありがとう ”

次の方より御芳志をいただきました。お礼申し上げます。

千葉市 入口 春 男 様

兵庫県 犬山 勇 様

横浜市 岩 渕 智 子 様

愛知県 小 幡 忠 子 様

## おたより

拝啓、風の冷たさにも冬の到来を感じる頃となりました。

御無沙汰ばかりで失礼いたしております。

いつも「島のひかり」をお送りいただきまして、ありがとうございます。コロナ禍の広がる中もご尽力くださり、いつにも増してご苦労も多かったことと拝察いたします。

教会のこと、地域のこと……

等、遠い日々を思い出しながら懐かしく拝見いたしております。

いつの日か直接お礼を申し上げます。向寒の折、主任神父様をはじめ皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

横浜市 岩 渕 智子

野山も紅葉にそまり、教会もクリスマス準備に忙しい中に島のひかりを制作され御苦労様です。

ふるさと島のひかり嬉しく拝読させて頂いて居ります。心から感謝して居ります。有難う。

私達は教会が出来る前は、加古川教会へ。クリスマスの時は教会の別の部屋に泊り込みです。加古川教会、片道一時間ですからね。信者も少なく、家庭ミサをしていました。

加古川からフランソワ・ムツシェ神父様に来て、私の妻と神父が信徒をさがしたそうです。私も結婚一年後、タンカーを

下りて、陸に就職。

神父も労働神父で自動車会社に就職する。

夕食は、時々カレーライスを運んできました。

古い農家を買ひ、教会にしました。私達は教会堂守番。

新しい教会が出来る迄四十年七ヶ月世話しました。

数少ないタタミの教会です。聖体・教会訪問の人があるので家内も大変だった様です。

兵庫県加東市 犬山 勇

## 古着収集への御礼

この度は、古着などの収集へのご協力をいただき、ありがとうございます。お陰様で、皆さまのご協力により、たくさんのお古着などが集まりましたのでご報告いたします。

そして、十分な量のおしり拭きを確保することができましたので、十二月をもって収集を終了させていただきます。感謝申し上げます。

特別養護老人ホーム  
聖マリアの園 桑村 秀子

## ふるさとだより

## スポーツフェスタ

in 奥浦 11月14日

早朝まで降った雨が、グラウンドにぬかるみを作ってしまった。急遽、コースを短くして大会決行。

子供達は明るくなった大空のもと、全力を出し切り、走り切ります。

応援する保護者、地域の人達は躍動する体躯に目を細め、拍手を送ります。

”来年は、きっと大声を上げて応援できるさ”



# ロボット県大会出場

十一月七日に波佐見町で創造アイデアロボットコンテスト長崎県大会が開催されました。基礎部門（三年生）一チーム、計測・制御部門（二年生）三チームが十月の市予選で上位入賞を果たし、本大会に出場しました。基礎部門は残念ながら一勝一敗で予選通過ならず。計測・制御部門は、あと一歩で九州大会出場を逃したが、三チームともベスト八に進出。

応援してくださいました皆様ありがとうございました。



# ”五島をめぐる”

— 奥浦地区子ども教室 —



カンメにて

十一月二十三日、ジオパークの代表的景勝地、鏡瀬と神爪（通称・カンメ）を散策。溶岩が形作る独特な景観に、子供達は興味津々。

十二月十一日には、翁頭山登山。子供達は山頂まで一気に阿成の勢い。山頂では素晴らしい眺望に少しだけ静かになったが下山時は再び元気な声がかましました。その後、草スキーを思いきり遊んで、帰路についた。

# 絶景 福江島 マラニック大会

前日から少し荒れ模様の天気です。冷たい風が吹き付ける中、福江島の自然と景観を楽しむマラソンとピクニックを複合させたマラニック大会が開催されました。前年開催された大会は七十七キロでしたが、今年は三十七キロに短縮され、しかも地元の南河原から樫の浦、浦頭教会から堂崎教会、戸岐大橋を渡って宮原教会から河務線を抜け福江の港公園を目指すコース、思わず力が入ります。

そして、この大会のもう一つの楽しみが途中のエイドステーションに準備してある福江島の名産品の数々。第一エイドから順に、コンソメスープ、ふくれもち、鬼鯖寿司、浜口水産のぼらもん揚げや天ぷら、かんころもち等が提供され、参加者はそれぞれ美味しいと話しながら味も楽しんでいました。

この大会の良い所は、参加者それぞれに楽しみ方がある所でタイムを競う方、ピクニック感

覚でのんびり景観を楽しむ方景観を楽しむついでに名産品をつまみ味を楽しむ方等、一人ひとりそれぞれの楽しみかたが違う所が魅力です。

今回、私も参加して約四時間ちよっとでゴール、今年も無事に完走する事が出来ました。ゴールした後は、五島うどんとおにぎりでお腹を満たし終了。市長さんの挨拶で、来年はもっと距離を延ばして開催したいとの事。ゴールした時の達成感を味わいたいので、来年も参加したいと思います。



夜明け前のスタート

## 編集後記



今年も少ない人数で協力し、無事に編集を終えることができました。来年も御愛読よろしく!!